



Title	東北日本人の形質人類学的研究 津軽・下北地区について
Author(s)	金澤, 豊純
Citation	大阪大学, 1967, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29457
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍)	金 澤 豊 純
	かな ざわ とよ すみ
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 1310 号
学位授与の日付	昭和42年12月22日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文名	東北日本人の形質人類学的研究 津軽・下北地区について
論文審査委員	(主査) 教授 小浜 基次
	(副査) 教授 伴 忠康 教授 浜 清

論文内容の要旨

〔目 的〕

日本人は同じ言語や文化で結ばれた日本民族を形成しているが、日本人の身体形質には著しい地方差がある。小浜は広範な日本人の生体計測学的研究を総合し、現代日本人を2つの地方型に分類している。すなわち、東日本を代表する東北・裏日本型と西日本を代表する畿内型である。特に東北・裏日本型にはアイヌ系形質が関与していることを想定している。われわれの教室では、1951年よりアイヌの人類学的研究を行ない、また、日本人とアイヌとの関係を追究するために、東北地方の調査を進めている。この報告は東北地方のうち、津軽、下北地区の成果（1958～63）であり、津軽、下北地区の特性、地区内の地域差を追究し、さらにアイヌとの関連を検討したものである。

〔資料と方法〕

調査地は青森県津軽地区では、南津軽郡藤崎、北津軽郡板柳、市浦、東津軽郡今別、三厩、西津軽郡深浦、鰺ヶ沢、中津軽郡西目屋、下北地区では三戸郡名川、下北郡川内、大畑である。調査地はいづれも都市を離れた農、漁、山村を選び、資料は土着の住民に限り、外来者は資料より除外している。20～59才の男子811名、女子1250名を対象とし、生体計測、生体観察、血液型、味官の調査をした。生体計測方法は Martin によるほか、科研・日本人の生体測定班の協定によった。

体部、頭部、顔部の重要な測度、指数を示標として、平均偏差比法 $\frac{1}{S} \sum \frac{|M_1 - M_2|}{\sigma}$ によって、集団間の類似度を数量的に検討した。

〔成 績〕

1) 津軽地区、下北地区の地域差について

地域ごとの男子平均偏差比は、津軽地区内0.13～0.22（平均0.17）、下北地区内0.10～0.25（平均0.16）であり、きわめて小さく、津軽、下北地区内では、それぞれの地域集団は互いに近似し、同一

群とみなしてよい。女子についても、おおむね一致する。

2) 津軽地区、下北地区の特性について

津軽、下北人は生体計測学的には、多くの共通した特性を示している。

下北の身長は男女ともに津軽よりやや高い。津軽男子の比下肢長は下北より大きく、比軀幹長は小さい傾向にあるが、女子では差異は認めない。比肩峰巾、比骨盤巾は男女ともに両地区は類似している。

頭長は津軽、下北間に差異はなく、ともに 190mm を突破し、日本人としては著しく大きい。津軽の頭巾は男女ともに下北より大きいから、頭長巾指数としては津軽は下北よりやや大きい、ともに中頭の上限に位し、互いに接近している。頭耳高、頭長高指数に地区差はなく、日本人としてはやや低頭である。頭巾の大きい津軽の頭巾高指数はやや小さい。

津軽、下北の頬骨弓巾には差異を認めがたく、日本人としては大きい部類に入る。頭巾の広い津軽の頭顔指数はやや小さい。容貌顔面指数、下顎指数、鼻高巾指数では両地区は近似している。

津軽、下北男子の体部、頭部、顔部についての平均偏差比は0.16であり、類似度はきわめて高い。

3) 平均偏差比による種族間の類似度について

津軽人は下北 (0.16) にもっとも近似し、これに次ぐものは混血アイヌ (0.34) であり、とくに体部 (0.22)、顔部 (0.23) が類似している。津軽人と畿内人 (0.56) との隔たりは、津軽人と純アイヌ (0.57) との隔たりに近く、特に頭部において、はなはだしい。

下北人を基準とした偏差化も津軽人におおむね一致する。

混血アイヌは純アイヌ (0.28)、下北人 (0.31)、津軽人 (0.34) に少差をもって類似し、畿内人 (0.70) とは離れている。

純アイヌを基準とすれば、混血アイヌ (0.28)、下北人 (0.55)、津軽人 (0.56)、畿内人 (0.95) の順となる。

畿内人はむしろ朝鮮人 (0.44) に接し、下北人 (0.51)、津軽人 (0.56) がこれに次ぎ、純アイヌ (0.93) とはもっとも離れている。

〔結 論〕

1958～1963年、津軽、下北地区において形質人類学的調査を行ない、アイヌとの関連を追究した。

津軽、下北地区内では地域差は少なく、それぞれに共通の特性を示し、互いに近似している。

津軽人と下北人の諸形質を総合すれば、両者間の偏差比にきわめて小さく、類似度が高い。

津軽・下北人の諸形質は、日本人のうちでは東北・裏日本型に属し、畿内人よりは混血アイヌに接近し、アイヌが東北日本人の構成に關与することを示唆している。

論文の審査結果の要旨

この研究は東北地方のうち、津軽、下北地区の形質人類学的調査成果（1958～63）であり、津軽、下北地区の特性、地区内の地域差を追究し、さらにアイヌとの関連を検討したものである。

津軽・下北地区内では地域差は少なく、それぞれには共通の特性を示し互いに近似している。津軽人と下北人の諸形質を総合すれば、両者間の偏差比はきわめて小さく、類似度が高い。

津軽・下北人の身長は日本人としては長身長の部類に入り、比下肢長は大きく、比軀幹長は小さい。比肩峰巾、比骨盤巾はともにすぐれている。頭長は日本人としては著しく大きい、頭巾も大きいから、頭長巾指数は中頭の上限に位している。頭耳高はやや低く、頭長高指数、頭巾高指数はともに小さい。顔部では、頬骨弓巾が大きいので、顔面指数は小さい。

津軽・下北人の諸形質は、日本人のうちでは東北・裏日本型に属し、畿内人よりは混血アイヌに接近し、アイヌが、東北人の構成に関与することが示唆している。